

◇外電一束◇

汎米會議

◆土地所有廢止法案

英國下院に於ては土地私有廢止法案が討議されると期待される(華府電報)

◆獨逸賠償金支拂

賠償委員會は十五日獨逸は金貨五千萬馬克支拂つ旨發表す(巴里電報)

◆聯合國對米賃債

聯合國の對米負債は元利合計百十三億二千萬弗に上る(華府電報)

◆支那ご日本

張作霖は滿蒙地方郵便收入金は同將軍の手中に納付すべきを命じ同地方の獨立を宣言せんとし吳佩孚は満洲進軍の氣勢を示す(上海電報)

◆英政府議會に敗る

小學校教員恩給基金として俸給の五步を積立つた十七日下院に於て前後第を講ずる事になつたが此の爲直ちに内閣瓦解とはなるまいと觀測されてゐる(倫敦電報)

◆重要書類盜難

東京諸新聞紙は在墨國の日本公使館に於て重要外交書類紛失ベラクルスより華府へ特別郵便で送致された形跡あり公使館では懸賞で該書類搜索中だと報じて居る(東京電報)

◆日佛國交親善

シヨルナル紙は東京通信員の高橋首相との會見の際首相の日佛親善及び日本と印度支那との貿易關係増大等に就ての談話を掲げた(巴里電報)

◇伯國宣傳講演

ストロ氏は十六日ソルボンに於て政

來るべき汎米會議は智利ナンチャゴ

で開催され米大陸諸國の軍備制限案

が討議されると期待される(華府電報)

は一切國有としての監理の爲一省を新設地主に對しては三十ヶ年償還公債を交附せんとする(倫敦電報)

◆獨逸賠償金支拂

賠償委員會は十五日獨逸は金貨五千萬馬克支拂つ旨發表す(巴里電報)

◆聯合國對米賃債

聯合國の對米負債は元利合計百十三億二千萬弗に上る(華府電報)

◆支那ご日本

張作霖は滿蒙地方郵便收入金は同將軍の手中に納付すべきを命じ同地方の獨立を宣言せんとし吳佩孚は満洲進軍の氣勢を示す(上海電報)

◆英政府議會に敗る

小學校教員恩給基金として俸給の五步を積立つた十七日下院に於て前後第を講ずる事になつたが此の爲直ちに内閣瓦解とはなるまいと觀測されてゐる(倫敦電報)

◆重要書類盜難

東京諸新聞紙は在墨國の日本公使館に於て重要外交書類紛失ベラクルスより華府へ特別郵便で送致された形跡あり公使館では懸賞で該書類搜索中だと報じて居る(東京電報)

◆日佛國交親善

シヨルナル紙は東京通信員の高橋首相との會見の際首相の日佛親善及び日本と印度支那との貿易關係増大等に就ての談話を掲げた(巴里電報)

駐佛伯國公使館書記官シルビオ、カ

治經濟藝術から見た伯國に就き講演

をし聽講者學者學生等で滿員の盛況であつた(巴里電報)

●昨年度伯國輸出貿易

料原料を輸出した肥料の主な輸入國に於て七九、六三七三七九キロ價額に於て七九、六三七三七九キロ價額

は獨逸及び英國である

サンントス港

◆伯國宣傳講演

ストロ氏は十六日ソルボンに於て政

來るべき汎米會議は智利ナンチャゴ

で開催され米大陸諸國の軍備制限案

が討議されると期待される(華府電報)

は一切國有としての監理の爲一省を新設地主に對しては三十ヶ年償還公債を交附せんとする(倫敦電報)

◆獨逸賠償金支拂

賠償委員會は十五日獨逸は金貨五千萬馬克支拂つ旨發表す(巴里電報)

◆聯合國對米賃債

聯合國の對米負債は元利合計百十三億二千萬弗に上る(華府電報)

◆支那ご日本

張作霖は滿蒙地方郵便收入金は同將軍の手中に納付すべきを命じ同地方の獨立を宣言せんとし吳佩孚は満洲進軍の氣勢を示す(上海電報)

◆英政府議會に敗る

小學校教員恩給基金として俸給の五步を積立つた十七日下院に於て前後第を講ずる事になつたが此の爲直ちに内閣瓦解とはなるまいと觀測されてゐる(倫敦電報)

◆重要書類盜難

東京諸新聞紙は在墨國の日本公使館に於て重要外交書類紛失ベラクルスより華府へ特別郵便で送致された形跡あり公使館では懸賞で該書類搜索中だと報じて居る(東京電報)

◆日佛國交親善

シヨルナル紙は東京通信員の高橋首相との會見の際首相の日佛親善及び日本と印度支那との貿易關係増大等に就ての談話を掲げた(巴里電報)

●昨年度伯國輸出貿易

料原料を輸出した肥料の主な輸入國に於て七九、六三七三七九キロ價額に於て七九、六三七三七九キロ價額

は獨逸及び英國である

サンントス港

◆伯國宣傳講演

ストロ氏は十六日ソルボンに於て政

來るべき汎米會議は智利ナンチャゴ

で開催され米大陸諸國の軍備制限案

が討議されると期待される(華府電報)

は一切國有としての監理の爲一省を新設地主に對しては三十ヶ年償還公債を交附せんとする(倫敦電報)

◆獨逸賠償金支拂

賠償委員會は十五日獨逸は金貨五千萬馬克支拂つ旨發表す(巴里電報)

◆聯合國對米賃債

聯合國の對米負債は元利合計百十三億二千萬弗に上る(華府電報)

◆支那ご日本

張作霖は滿蒙地方郵便收入金は同將軍の手中に納付すべきを命じ同地方の獨立を宣言せんとし吳佩孚は満洲進軍の氣勢を示す(上海電報)

◆英政府議會に敗る

小學校教員恩給基金として俸給の五步を積立つた十七日下院に於て前後第を講ずる事になつたが此の爲直ちに内閣瓦解とはなるまいと觀測されてゐる(倫敦電報)

◆重要書類盜難

東京諸新聞紙は在墨國の日本公使館に於て重要外交書類紛失ベラクルスより華府へ特別郵便で送致された形跡あり公使館では懸賞で該書類搜索中だと報じて居る(東京電報)

◆日佛國交親善

シヨルナル紙は東京通信員の高橋首相との會見の際首相の日佛親善及び日本と印度支那との貿易關係増大等に就ての談話を掲げた(巴里電報)

●先週中亞國から伯國へ輸出した小

麥は五、八七一噸であつた

千九百ヘクターレスで其内南大河州の分は九萬八千ヘクターレスである

伯國内外債額

伯國の小麦栽培耕地面積は十萬二

麥は五、八七一噸であつた

千九百ヘクターレスで其内南大河州の分は九萬八千ヘクターレスである

麦は五、八七一噸であつた

千九百ヘクターレスで其内南大河州の分は九萬八千ヘクターレスである

▲百年紀念博覽會と共に葡國委員會は伯國側と交渉して葡國經濟會議を

リオ開き兩國の經濟關係を研究し

やうと云ふ計畫があり多分實現され

パラナ州

伯國の小麦栽培耕地面積は十萬二

麥は五、八七一噸であつた

千九百ヘクターレスで其内南大河州の分は九萬八千ヘクターレスである

麦は五、八七一噸であつた

千九百ヘクターレスで其内南大河州の分は九萬八千ヘクターレスである

トもあり、生産物運搬用達磨船があ

耕地へ出す、目下九家族の日本人が就

耕してゐるが、皆相應に成績を舉

伯語講習者に座右

耕してゐる。主作物は米、玉蜀黍で、特

徴のは病氣のないこと、水の美

地又は附近の糲米を買ひ精米して市

に消費された又伯國は同一九二〇年

のオツタワ電報)

許法案下院三讀會を通じ上院へ回

てゐる。主作物は米、玉蜀黍で、特

耕してゐる。主作物は米、玉蜀黍で、特

伯語講習者に座右

耕してゐる。主作物は米、玉蜀黍で、特

伯國農業發展策 (五)

帝國總領事館農業技師 江越信胤

の發源地にして、吾人農業者は宜しく伯國の爲め更に不毛の原野を開拓するのやうである。

除草は植付後三十日前後に一回五十日前後に草にて除草兼薯株の土寄せを随分除草に骨が折れる。殊に本年多雨にては一層厄介であつた。

近頃獨逸柏林の警察は、六ヶ國の紙幣を偽造し行使する。一大團體の存在する事を發見して大活躍を始めた。

同團探査に全力を盡してゐるが、紙幣を偽造し行使する。依然として繼續される程に、巧妙に同團は組織され、獨逸官憲と國民銀行と協力して、同團探査に全効力を盡してゐるが、紙幣を偽造し行使する。依然として止まない。

▲彼等の仕事は外國へまで流れ行く程に、巧妙に同團は組織され、獨逸官憲と國民銀行と協力して、同團探査に全効力を盡してゐるが、紙幣を偽造し行使する。依然として止まない。

このことは十弗、五十、百、及び千馬

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

大石内藏之助

牛井桃水

森で御座いました
「ム、左様であつたのう、是はいつ
の間にやら行過ぎた」と八十右衛門
は跡道返して、彼處へ行かうとする
のである。文助は驚いて、『旦那様、ど、ど、何處へお越しな
る』と申すと、文助は、間なく時なく空を
眺めて、『旦那様、今からお出立で御座りま
すのか』

『今日發足仕事で、暇申上げたか
らは、是非とも出掛けねば相成らぬ』
『もう暮れる間に間も御座りませぬ、
其の上危い空模様、明日の事になさ
れますが、宜しからうと存じます』
『假りにも偽りを申し上げては相成
らぬ高が七里の道、雨に降られても
道に迷うても、身共は聊か厭はぬ覺
えます』

主從家を出る頃は、早黄昏に程近
く、半里も行かぬうち、日はすつぶ
り暮ればて、黑白分明眞の間、
小提灯に道を照らして、三里ばかり
も進んだ頃から、よほ／＼雨は降
り出した。

『どう／＼降つて参りました』
『大降りにも相成るまい、汝は雨具
の用意があるか』
『多分降らうと存じましたゆゑ、且
那様のも私のも、雨具は用意致しま
した、サ、是をお召し下さりませう』
『エ、マヤ鈍な事を致しました』
『オ、火が消えたの、幸ひ行手の森
蔭に灯火が見える、彼行へ参つて休
息の上、火を借りる事に致さう』
『ほんにそれが宜しう御座います』
と主従は灯影を目指に、かの森蔭を

さして急いだ。
四月二十日の宵闇、殊に空はかき
曇つて、今にも降りしそうな氣象、
供の下男文助は、間なく時なく空を
眺めて、『旦那様、今からお出立で御座りま
すのか』

さして急いだ。

四月二十日の宵闇、殊に空はかき

森蔭に蓮を蔽ひ、焚火して暖を取り

つゝ、酒酌交はす荒くれ男、何れも

め赴いた。

四月二十日の宵闇、殊に空はかき

森蔭に